開会あいさつ
内閣府　科学技術・イノベーション推進事務局
辻原 浩　参事官

- ただいまご紹介にあずかりました内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官の辻原と申します。本日はお忙しいところ、総合知ウェビナーにお集まりいただき、深くお礼を申し上げます。開会にあたり、一言ご挨拶させて頂きます。

- 令和３年 3 月に閣議決定された第 6 期科学技術・イノベーション基本計画では、我が国が目指すべき社会像である Society 5.0 の未来社会像を、「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」と表現し、その実現に向けた
- 「「総合知による社会変革」と「知・人への投資」の好循環」という科学技術・イノベーション政策の方向性を示しています。

- 気候変動や新興感染症、国家間紛争にともなうエネルギー・資源・食料問題など、現在われわれが直面する世界的な規模の課題に対処していくには、自然科学のみならず、人文・社会科学も含めた多様な「知」の創造と、それらの融合による社会の総合的理解と課題解決に資する「総合知」の創出と活用がますます重要となっています。

- この「総合知」について、内閣府 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会にて議論を深め、「「総合知」の基本的な考え方及び戦略的に推進する方策について、令和４年 3 月に「中間とりまとめ」を行ったところです。

- その中で、総合知とは、「多様な知が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと 」と定義づけられました。これは、属する組織の矩を超え多様な知が集い、新たな価値が創出されることで、科学技術・イノベーションの成果の社会実装につながり、そして、社会変革をもたらすものであるとされております。

- 「総合知の活用」はそれ自体が目的ではなく、「新たな価値を創出することによる科学技術・イノベーションの成果の社会実装を推進すること」、そして、「持続可能性や Well-being に真正面から向き合うこと」です。また、それにより、科学技術・イノベーションを 、我が国の「勝ち筋」の源泉にすることを目指すものであります。

- さらに、「中間とりまとめ」においては、本日のようなシンポジウムやワークショップを通じ、総合知を広く社会に発信するとともに、総合知の活用事例を収集し、研究の最前線の皆様と意見交換を行い、「総合知」をブラッシュアップしていくこととしています。

- 本日のウェビナーは、この総合知の活用事例の収集のため、令和４年１０月から１１月にかけて内閣府が実施した、総合知の活用事例募集へ応募していただいた事例の中から、総合科学技術・イノベーション会議の有識者議員懇談会で選定された好事例について、ご発表いただき、また相互の意見交換なども行われると聞いております。

- ご発表いただく皆さんの経験をウェビナーにご参加いただいた方々にも、広く共有いただくことで、総合知の普及とさらなる活用の推進を期待しております。

- 以上をもちまして、私の挨拶に代えさせていただきます。